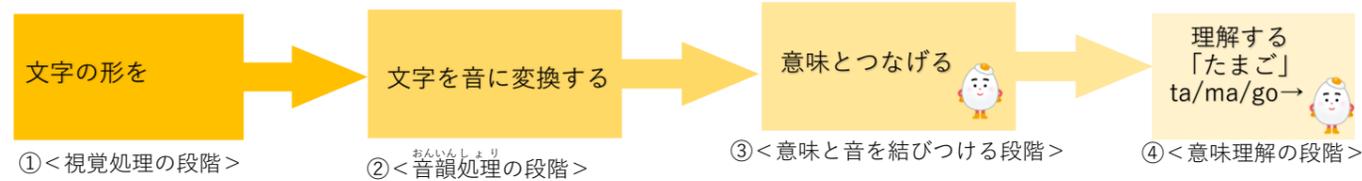




ひらがなを読む力は、幼児期後半から伸びていきます。  
読字の**芽生え段階**での処理は以下のようになっています。

例) たまご



ここでは、文字と音を結びつけるのに大切な、**音韻認識の力**についてご紹介します。

### ●音韻認識とは

ことばが音の組み合わせで出来上がっていることに気が付き、操作する力のことです。

正しい発音の習得や、ひらがな学習のベースになる力で、たとえば「たまご」という言葉が

「た」「ま」「ご」の三つの音で構成されていて、最後の音は？と訊かれた時に「ご」と言える、といった力のことで

### ●モーラ (拍) について

モーラ (拍) は話し言葉のリズムの単位です。「たまご」→「た」「ま」「ご」 (= 3モーラ) のように、日本語のことばは、一音ずつモーラ (拍) に分けることができます。日本語では、1モーラにかな1文字が一対一で規則的に対応する関係があり、日本語の文字学習ではモーラ単位の音への気づき大切です。

### ●かな文字習得に必要な音韻認識と大体の獲得年齢

#### ○音韻分解 (ことばを一音ずつわけ力)

例: 「たまご」を、「た」「ま」「ご」と一音ずつに分けられるなど。

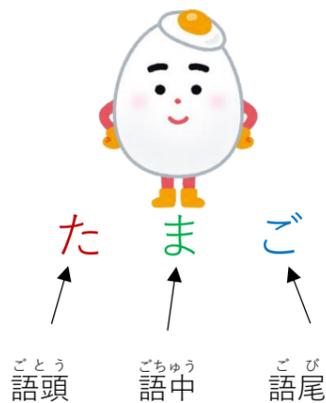
獲得時期: 4歳後半ごろ

#### ○音韻抽出 (ことばの中から特定の音を抜き出す力)

例: 「たまご」の最初の音が「た」であることがわかる。

語頭→語尾→語中の順番に意識するのが難しくなります。

獲得時期: 語頭・語尾 (4歳半)、語中音抽出 (5歳前半)



#### < 参考 >

井川典克, みんなでつなぐ読み書き支援プログラム, 株式会社クリエイツかもがわ; 2020  
大伴潔, 大井学, 特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援, 学苑社; 2011  
玉井ふみ, 深浦順一, 標準言語聴覚障害学 言語発達障害学, 医学書院; 2010

#### < おすすめの本・教材 >

梅田真里, 特別支援をサポートする読み・書き・計算指導事例集; ナツメ社 2016  
村井敏宏, 中尾和人, 読み書きが苦手な子どもへの<基礎>トレーニングワーク; 明治図書 2010

## ●音韻認識を高める遊び

### ○すごろく (4歳後半ごろ～)

サイコロの出目の代わりに、単語の長さですごろく。

お子さんの好きなものを貼ってあげたり、カードを引くタイプにしても楽しいです。

音韻分解が苦手なお子さんには、まずは短めで、**特殊音節** (※) の入っていない単語で取り組ませてあげるとよりわかりやすいです。

(※特殊音節とは) 日本語の拗音 (きゃ・しゅ・ちょ等)、促音 (小さい <っ>)、長音 (のばした音 <ケーキ等>)、撥音 (<くん> がつくもの <でんわ・びょういん等>) が入った単語のこと



※すごろくの盤面はちびむすドリル (<https://happylilac.net/kisetsu-sozai.html>) さんからお借りしています。

### ○階段ぐりこ

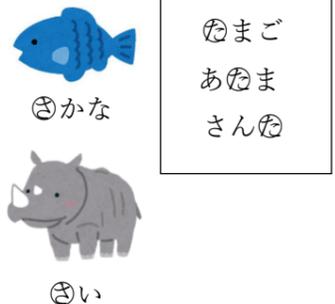
「ぐりこ」「ばいなつぷる」といいながら階段をのぼる遊び、音韻分解を体感的に理解できます。

### ○ことば探し

例) 「さ」のつく言葉あつめなど

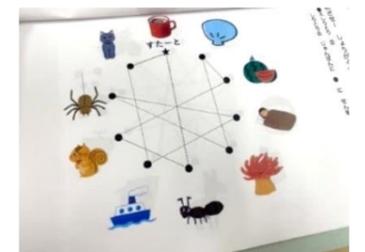
語頭に目標音→語尾に目標音→語中に目標音の順番に難しくなります。

言葉を思い出すのに困ってしまうおさんは、絵本や図鑑の一ページの中や、お部屋の中で探してみても楽しいと思います。



### ○しりとり (5歳ごろ)

しりとりの理解には、語彙の力の他に、語頭と語尾の音の抽出ができる力が必要です。言葉を思い出すのが難しい場合は、カードを並び替えたり、絵を用意して、順番に線をひけるクイズプリントのようにしてあげても良いかもしれません。



### ○さかさことば (2文字程度)

例) ねこ→こね たまご→ごまた など、反対から言うと何になるかのクイズを出し合う。

言われたことを覚えておく力も必要なので、結構難しいです。最初は2文字や3文字程度、難しそうであれば、イラストや絵本を見ながら取り組みましょう。

他にも積木やビーズなど、目に見えるものを操作するなど視覚的なヒントをあげましょう。

～お子さんの好きなもの・キャラクターなどを活用して、楽しく取り組んでみてください～